

【実践編④】

「探究×Well-being」 自分と社会の幸せを創る

～9年間の系統的な「My 探究」で、

自分の「価値」を理解し、生かそうとする学習者を育む！～

広島県の北中部に位置する安芸高田市立向原中学校区は、向原小学校と向原中学校の2校からなる小規模な学校群です。同校区では、小中一貫教育のメリットを最大限に生かし、「探究×Well-being(ウェルビーイング)」を探究の特色として取り組んでいます。

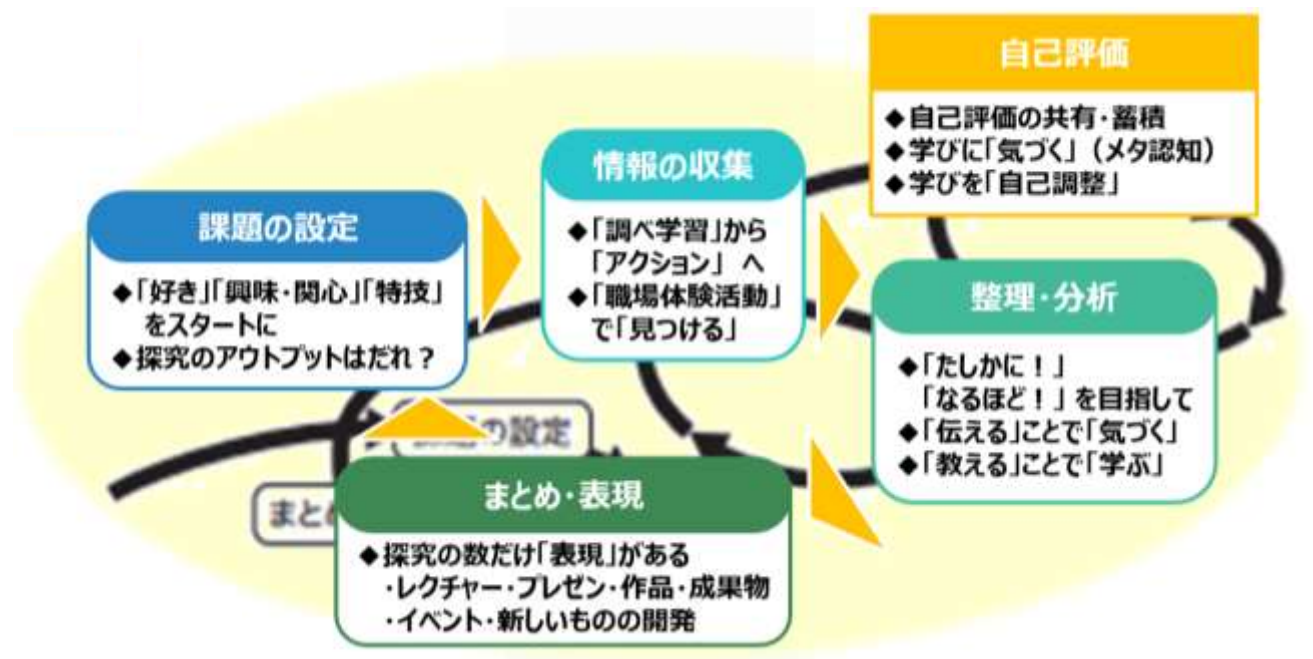
子どもたちが自らの幸せ(Well-being)と社会の幸せを重ね合わせながら、9年間を通して系統的に探究する「My 探究」。小学校での土台づくりから、中学校での異学年協働(1・3年)、そして職場体験活動を有機的に組み込んだ探究活動(2年)まで、その実践を紹介します。



1. 取組のポイントと経緯

～9年間を見通したカリキュラム・デザイン 「自分の好き」から「社会の課題」へ～

向原中学校区が目指すのは、探究的な学習を通して、自ら見つけた課題を自分事として考え、他者とつながりながら解決できる児童生徒の育成です。そのために、小中9年間を貫く「探究×Well-being」カリキュラムを開発しました。下図は「My 探究」のサイクルを示したものです。それぞれのサイクルでの活動が深まるよう、様々な手立てを仕組んであります。また、単元全体を通して子どもたちの自己評価を大切にし、メタ認知力や自己調整力の向上も図っています。



(1)【小学校ステージ】 自分の「好き」を見つけ、深める

小学校では、生活科や総合的な学習の時間を通して、自分の内面にある「興味・関心」を掘り起こすことを重視しています。

- 低学年(1・2年): 身近な人々や自然との関わりの中で、自分の「好き」の種を見つける。
- 中学年(3・4年): 「何が好き?」「もっと知りたいことは?」と問いかけ、自分の「好き」を友達や周りの人に伝える。
- 高学年(5・6年): 自分の「好き」や「得意」を、他者のためにどう生かすかを考え、探究の質を高める。

この6年間で子どもたちが見つけ、深めてきたそれぞれの「好き」や「興味・関心」が、中学校での本格的な探究活動のエンジンとなります。

(2)【中学校ステージ】「My 探究」HOP・STEP・JUMP！

中学校の3年間では、小学校での学びを基盤に、より実社会に開かれた探究へと発展させます。各学年の段階を「HOP・STEP・JUMP」と名付け、独自の目標を設定しています。

- 1年:「My 探究」HOP **H**一人一人の **O**“おもしろい！”を生かそう **P**プロジェクト
自分の「興味・関心」をスタートに、地域や社会へ目を向ける。
- 2年:「My 探究」STEP **S**職場 **T**体験 **E** Exploration(探究) **P**プロジェクト
「職場体験活動」を通して、実社会の課題を見つけ、解決策を提案する。
- 3年:「My 探究」JUMP **J**自分の **U**“うまみ”を **M**もっと生かそう **P**プロジェクト
自分の強みを生かし、地域や社会、自分の将来のために行動する。

「HOP・STEP・JUMP」と段階を踏むことで、生徒は自分の興味・関心(個別最適な学び)を軸にしなが、異学年交流や地域との連携(協働的な学び)を通じて、探究の質を高めていきます。

2. 授業づくりのポイント:カリキュラム・マネジメント

(1)向原小学校の実践 ～「調べ学習」から「アクション」へ！～

小学校では、児童一人一人が自分の興味・関心に合わせて探究を進められるよう、独自の「型」と「キーワード」を設定しています。

① 一人一人の「My 探究」の型

子どもたちが自分の探究の方向性を決めやすいよう、3つのタイプを提示しています。これにより、探究のゴールイメージを持ちやすくなり、迷うことなく自分のテーマに向き合うことができます。

- 問題解決型・・・「困ったことや気になることを解決したい！」
- すき究め型・・・「好きなことにもっと詳しくなって伝えたい！」
- レクチャー型・・・「自分の得意なことを他の人に教えたい！」

② 探究を加速させるキーワード『3みる』

これまでの「調べ学習」から、実際に自分で行動する「My 探究」へとレベルアップさせるために、『3みる』というアクションを推奨しています。ネットで調べるだけでなく、実体験を通して学ぶことを重視しています。

○聞いてみる(専門家や地域の人に)

- ・陸上教室の先生に「足が速くなる方法」を聞く。
- ・クレープ店の店長さんに「生地を薄くきれいに焼くコツ」を聞く。



○行ってみる(現場へ)

- ・珍しい生き物を観察するために水族館へ行く。
- ・安芸高田市の「珍しい石」の名所へ行く。



○やってみる(検証・実践)

- ・自転車で「安全に止まるコツ」を試し、下級生にもやってみてもらう。
- ・オムライス作りで失敗した原因を考え、再度作ってみる。

③ 説得力のある資料を求める『たしカニ』

中間発表会の相互評価では、“検証内容を伝えるための具体的な資料があるか”、“その資料が「問い」の解決につながるものか”を、『たしカニ』の数で評価し合います。『たしカニ』というキーワードがあることで、児童は整理・分析の方法が適切かどうかを判断する視点を持ちます。友達と評価を交流し合い、整理・分析の方法や提示する資料を改善します。

資料がある (これから集める資料が揃っている)	問いにつながる(ずれていない)資料がある	問いの解決につながる資料がある	資料がある (これから集める資料が揃っている)	問いにつながる(ずれていない)資料がある	問いの解決につながる資料がある
たしカニ 	たしカニ 	たしカニ 	たしカニ 	たしカニ 	たしカニ
具体的なコメント (8000257-4012129846/0018-401414/76-48817166-30096-0141) 光の当て方でふんわりがかわるとはよく/画像]資料がたしかあったから 画像がすずしい。			具体的なコメント (8000257-4012129846/0018-401414/76-48817166-30096-0141) ・ざいごくり電卓を入れてよかった		
ほかの感想も聞くとほかにも感想も聞かせてほしいと思った			・宿題のページで先生に聞いてみるかかいてほしいから 先生に聞かせてみることをわかってほしいと思う		

④ 振り返りの指標『なるほど！』

「My 探究」全体の振り返りでは、ワークシートに『なるほど！』(理解度・驚き度・納得度)という指標を設け、単なる感想ではなく「何が分かって・何ができたか」を具体的に記述できるようにしています。

(2) 向原中学校の実践 ～「ポートフォリオ」と、高校連携で広がる探究～

生徒の「主体的に学習に取り組む態度」を支えているのが、学びのプロセスを可視化する「ポートフォリオ」と、丁寧な「振り返り」です。また、義務教育9年間だけでなく、その先の高校段階を見据え、吉田高等学校(探究科)との連携も行っています。

①「ポートフォリオ」を用いた生徒自身による「自己調整」

探究学習は、計画通りに一直線に進むとは限りません。試行錯誤のプロセスそのものを評価するために、日々の記録(ポートフォリオ)を重視しています。毎時間の授業の終わりに、生徒は3種類の「自己評価カード」から、その日の自分の学びに合った1枚を選び、自己評価を記入します。ここでは、単に「できた／できなかった」を記録するだけではありません。「自分が何をして何を学んだか」「友達との協働から何に気づいたか」「これからの探究をどう進めたいか」を記述します。自分の学びを振り返り、言語化することにより生徒の「メタ認知力」が向上していきます。

自己評価パターン① 『表現力』	自己評価パターン② 『主体性・協働性』	自己評価パターン③ 『先見力』
<p>授業番号 ① 1 今日の授業でわかったことは？</p> <p>学習課題：自分の“うまみ”を生かした「問い」を解決することで、地域の豊か(役立っ)たろうか？(「問い」を考えよう)</p> <p>振り返り： よくゲームやスマホを見たりする人に役立つと思った。いろいろ実験したいことが出てきたのでどれだけ消費額を抑えられるかを意識して取り組みたいと思った。</p> <p><input type="checkbox"/>理由を書いて <input type="checkbox"/>具体的に書いて ご褒美をもらおう！！</p>	<p>授業番号 11 2 誰とどんな話をした？ (参考になった意見は？)</p> <p>学習課題：設定した「問い」・検証方法は、適切・有効だろうか。</p> <p>振り返り： 「〇〇」と話してみても理解し難かったです。「すぐに答えが出るよね」とか「定義はなに？」など改善したほうが良いところは見つかるけど、どうアレンジをしたらいいのかわからなくて悩ましいをすればいいのが全然見当がつかなくて大変でした。もう1時間あるので今日はあとまらなかつたところを話していきたいです。</p> <p><input type="checkbox"/>理由を書いて <input type="checkbox"/>具体的に書いて ご褒美をもらおう！！</p>	<p>授業番号 ② 3 もっと知りたいことは？ 次の授業でやることは？</p> <p>学習課題：自分の“うまみ”を地域・社会につなげる「問い」とはどのような「問い」だろうか？</p> <p>振り返り： 今日は、自分の興味と地域社会のつながりをもとに、テーマを考えました。今回は、去年の職場体験を下にしたテーマを案外まとめることができたので、次は、僕が興味のある自然科学のテーマの課題で、地域社会とつながるものを考えていきたい。</p> <p><input type="checkbox"/>理由を書いて <input type="checkbox"/>具体的に書いて ご褒美をもらおう！！</p>

また、各授業の自己評価カードは、ポートフォリオカードに貼り付けて蓄積していきます。「情報の収集をしていたけれど、新たな疑問が出たので計画を変更した」「グループで話し合っ、自分の考えが少し変わった」といった思考の変容や軌道修正の履歴を残していくことにより、生徒は自分の学びを客観的に見つめ直し、次のアクションを自ら決定する「自己調整学習」の力を高めていきます。

「My探究」JUMPポートフォリオ	
課題の設定	① ② ③ ④
情報の収集	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑮
整理・分析	⑨ ⑭ ⑯ ⑰ ⑱
まとめ・表現	<p>9回目の授業で、「整理・分析」に進んだが、「吉高生から学ぼう①」以降、「情報の収集」の段階に戻っている。</p> <p>⇒探究のサイクルを行ったり来たりしながら探究を進めている。</p>

② 吉田高等学校との連携

向原中学校区の探究は、中学校卒業で終わりではありません。隣接する県立吉田高等学校との連携により、さらに高度な学びへの接続を図っています。

吉田高校の先輩との交流も重要なキャリア教育の機会です。高校生に中学生が質問をしたり、中学生の「My 探究」に対して高校生がアドバイスを送ったりする機会を設けています。

「高校生になると、こんなに視野が広がるんだ」「もっと深い分析ができるようになるんだ」と、身近な先輩である高校生の姿は、中学生にとって「未来の自分」の具体的なロールモデルとなり、「もっと学びたい」「早く高校で探究したい」という学習意欲の向上(JUMP)につながっています。



3. 実際の授業のワンシーン

(1) 1年生 & 3年生「合同授業」 ～「縦のつながり」が探究を加速させる～

向原中学校の大きな特色は、異なる学年が学び合う「協働的な学び」の場が設定されていることです。ここでは、1年生(HOP)と3年生(JUMP)が合同で行った「My 探究」の授業(6月実施)をご紹介します。

① 1年生の「問い」を、3年生がコーチング

この授業の主役は1年生ですが、その学びを支えるのは3年生です。

1年生は、自分の興味・関心に基づいた「問い(探究テーマ)」と、それをどう検証するか(聞いてみる・行ってみる・やってみるの『3みる』)の計画を3年生に向けてプレゼンします。

対する3年生の役割は「メンター(助言者)」です。3年生は、これまでの経験を生かし、1年生の計画に対して次のような視点でフィードバックを行います。

- 「その問いは、ネットで調べたらすぐに答えが出るんじゃない？」
- 「その検証方法と「問い」はつながっている？」
- 「アンケートをとる相手はそれでいいの？」
- 「その問いから明らかになったことは、だれの役に立ちそう？」

② 「教える」ことで「学ぶ」3年生

この異学年交流は、3年生にとっても大きな学びの機会です。下級生にアドバイスをするためには、自分自身が探究のプロセスを深く理解していなければなりません(メタ認知)。

「1年生に説明しようとして、自分も1年生の頃に同じ壁にぶつかったことを思い出した」「1年生の探究を客観的に見てみると、自分の検証方法が曖昧だということにも気づいた」などの記述からは、他者に「教える」ことによって学びが深まっていることがわかります。人に教えることで、自分の探究の良さと改善点に改めて気づくことができた3年生の姿からは、自身の学びへの自信(自己効力感)が感じられました。(下図:3年生の自己評価カード)

<p>授業番号 13</p> <p>1 今日の授業でわかったことは？</p> <p>学習課題：(1年生の)「問い」は「他者」の役に立つ提案につながる「問い」だろうか。⇒どのように改善すればよいだろうか。</p> <p>振り返り： 今回は、1年生とのコーチングをやった。質問を見つけてるのが難しかった。答えを自分で見つけてもらうのも難しく、「こうするのがいんじゃない。」とか「こうすれば？」と答えっぽいものを言ってしまうことが多かった。そこは、改善点だなと思った。1年生のテーマは他者につながることでできている。1年生のテーマ設定の仕方とはまた違うなと思ったし、いいと思いました。</p> <p><input type="checkbox"/>理由を書いて <input type="checkbox"/>具体的に書いて <input type="checkbox"/>すばらしい！！</p>	<p>授業番号 13</p> <p>2 誰とどんな話をした？ (参考になった意見は？)</p> <p>学習課題：(1年生の)「問い」は「他者」の役に立つ提案につながる「問い」だろうか。⇒どのように改善すればよいだろうか。</p> <p>振り返り：1年生と話をして、自分の問いについては主観的に見てしまうけれど、他の人の問いについて客観的に見てみると、自分の問いにもつながるところがあったりして、自分の検証方法も曖昧だったりする改善点も一緒に見つけることができました。自分だけで問いを考えるとうろたうとも問題点が興付けにくくなってしまいますので、問や検証方法もまた色々見て改善していきたいです。</p> <p><input type="checkbox"/>理由を書いて <input type="checkbox"/>具体的に書いて <input type="checkbox"/>すばらしい！！</p>	
---	--	--

(2) 2年生「職場体験活動×探究」～「体験」で終わらせない、「提案」する学びへ～

2年生の「STEP」では、「職場体験活動」を探究学習のプロセスに大胆に組み込みました。

① 課題解決型の職場体験活動

従来の職場体験活動は「仕事を体験させていただく」という受動的な側面が強いものでした。しかし、向原中の「My 探究」STEP では、生徒は働くことの意義を学ぶと同時に、「情報の収集者」として事業所に赴きます。

「My 探究」STEP での生徒たちのミッションは、「事業所の課題や、もっと良くなるための種を見つけ、解決策を提案すること」です。

② 教室での「作戦会議」(協働的な学び)

職場体験活動から戻った生徒たちは、教室で提案内容を練り上げます。ある授業(10月実施)では、3～4人のグループで「相談・交流会」が行われていました。「小学生向けのポスターに改善点はあるかな?」「低学年は Level Up が読めないかもしれないよ」、「ポスターを事業所のど

ここに貼ればいいだろう？」「挨拶が書いてあるんだから玄関がいいんじゃない？」、「このキャラクターどう思う？」「ほっぺたはピンクの方が可愛いし、全体の色はアイス(ひとは福祉会の商品)に似せた方がいいよ」などのやり取りが行われます。ここでは、自分の探究(個別最適な学び)を、仲間の知恵を借りてブラッシュアップする(協働的な学び)サイクルが回っています。

最終的に、生徒たちは事業所の方や利用者の方に向けた「提案」(アウトプット)を行います。提案の形は生徒によって様々です。事業所でイベントを行う、ポスターやPOP、絵本などの成果物を届ける、レシピや事業所のキャラクターを考案して伝える、など、自分が見つけた課題を解決するために、自分の良さや特技などを生かしながら、独自のアウトプットをしました。また、事業所の方のフィードバックや利用者の方にどのように役に立ったのかを確かめました。そしてそれは、自分の良さや特技が他者の役に立ち、社会の幸せに少しだけつながった喜びにもなったようです。

事業所	「問い」	まとめ・表現	結果
かがやき	もっと利用者さんを楽しませるには？	絵本の作成	事業所に渡しに行き、施設の本棚に置かせてもらうことで、利用者さんに喜んでもらえた
こばと園	もっと園児さんを楽しませるには？	お楽しみ会を実施	園児さんに楽しんでもらえた
JA	農家さんの後継ぎを増やすには？	農業体験を定期的に行うことができるような提案を作成	事業所でプレゼンを行い、フィードバックをもらった
セブンイレブン	商品を前から取ってもらうには？	POPの作成	効果があり、商品を奥から取られることが減った
A マート	人材不足を解消するには？	A マートの魅力のポスターを作成	ポスターを店に掲示→従業員さんの意識改革につながった
大谷製作所	将来的な人材不足を解消するには？	人材募集のポスターを作成	人材不足の解消につながったかは分からないが、事業所から依頼されて町内に掲示した
ひとは福祉会	人材不足を解消するには？	アルバイト募集のポスター作成 オリジナルキャラクター作成	キャラクターシール、塗り絵を事業所に持っていき、喜んでもらえた
和高醸造	和高醸造の商品をもっと多くの人に知ってもらうには？ 商品を買ってもらうには？	味噌バターレシピの作成	事業所からレシピのPOP作成を依頼され、作成したものが販売店で掲示された
マルサン	いろいろな国の従業員とよりよくコミュニケーションをとるには？	挨拶などの簡単なフレーズをまとめ、ポスターを作成し工場内に掲示	外国人従業員にアンケートを行ったところ、「働きやすくなった」と回答した人が増えた
向原小学校	学習ルームと図書室の利用者を増やすには？	ポスター、POPの作成	利用者を増やすことができた
向原薬局	薬局内の商品をどうすればもっと売ることができるのか？	商品紹介のPOP作成	商品の売り上げが上がった



4. 先生方の声・インタビュー

～「探究×Well-being」がつなぐ、子どもと地域の未来～

—「探究×Well-being」の取り組みを通して、大切にしてきたことはどのようなことですか。

地京 教諭(研究推進リーダー):

探究学習の一年目は、教師側も進め方が分からない上、生徒には失敗させたくなく、探究が滞りなく終わることを目的としていたように思います。そのため、計画通りに進んでいない生徒に、「～したらいいよ」と道筋をすぐに示してしまっていました。しかし、試行錯誤のプロセスそのものに価値があると知ってからは、意識が大きく変わりました。私たちがまず徹底的に行ったことは「ティーチングではなくコーチングをすること」です。コーチングが身に付くと、教師は「教える存在」から、「伴走者」へと変わります。「先生は教えてくれない(でも支えてくれる)」と気づいてからは、生徒は自分で考えて、進み始めます。自分で考えると「言葉」が増えます。自分の学びを語れるようになると、自信がきます。その自信が、生徒の「これから」を支えてくれれば、それが一番大きな成果だと思っています。

正田 教諭(向原小学校研究主任):

探究学習導入当初は、自身の興味・関心を見いだせないことや、検証方法が分からないことなどから、探究の進め方に悩む児童も少なくありませんでした。そこで、この2年間、教員が児童の思いを尊重しつつ、探究をよりよいものにするためのコーチングについて学び直すとともに、児童が自分の「好き」を安心して語ることでできる学習環境づくりに継続して取り組んできました。その結果、自分の探究に自信をもち、友達と「好き」なことを互いに認め合う姿が見られるようになってきました。さらに、「3みる」「なるほど」「たし力ニ」などのキーワードを示し、指導者の意図が児童に明確に伝わるように手立てを工夫してきました。日々、教員同士でアイデアを出し合いながら実践を重ねてきたことも、探究学習の質の向上につながったと考えます。

——学校全体で取り組む意義について教えてください。

桑田 校長:

小規模校である本校にとって、生徒一人一人の「Well-being(幸せ)」を追求することは、そのまま地域の未来を創ることに直結します。私たちが目指す Well-being とは、自分だけの幸せではなく、自分の強みを生かして他者や社会に貢献し、その喜びを実感することです。

2年生の職場体験活動では、自分が実際に体験し、課題と感じた点について解決方法を探究し、地域の事業所へ「提案」を行います。地域の方々には提案内容を快く受け入れてくださっています。生徒が地域の中で、自分たちが探究したことが「役に立った」「認められた」という原体験を持つことは、何物にも代えがたい体験であり、今後、自分の将来を考える上での活力となります。

また、小中9年間の一貫したカリキュラムや、学年を超えた「縦のつながり」を生かせるのは、この規模だからこその強みです。「探究」を核にして、生徒、教員、そして地域が一つになり、そ

それぞれの立場から新たな価値を創造していく。この循環こそが、持続可能な学校と地域の在り方だと考えています。

5. 終わりに

自分の小さな「好き」や「ワクワク」を種として、それを社会との関わりの中で大きく育てていく向原中学校区の子どもたち。壁にぶつかり、立ち止まることがあっても、仲間や地域の人々、そして伴走する教師との温かい対話（協働）によって、再び前を向いて歩き出す姿（個別）がそこにありました。そのプロセスを通して得た「自分にも社会を変える力がある」という実感こそが、予測困難な未来を切り拓く、何よりの「たくましさ」です。

最後に、「My 探究を通して、学んだことは何ですか？」の問いへの、子どもたちの答えを紹介します。まず、探究に関わる知識や技能に言及するコメント。次に、職場体験活動での学びや、自分の興味・関心の深まりについて。また、より良い探究にする方策について。そして最後に、自分の探究を他者につなげる難しさや良さといった、「My 探究」のゴールに言及するものまで、子どもたちは、様々な学びを語ってくれました。子どもたち一人一人の興味・関心や思いに寄り添いながら、探究の質も高めていくことは、簡単なことではありません。子どもたち自身も、大人（教師）も「揺らぎ」ながら、共に悩みながら、進んでいるのです。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実——。その先にあるのは、子どもたちが自らの手で幸せを創り出していく Well-being な未来です。向原の挑戦は、私たちにその確かな希望と道筋（パスポート）を示してくれています。

